

令和 2 年度秋学期 科目レベルの学修成果の査定結果

令和 2 年度秋学期科目レベルの学修成果の査定概要及び査定結果は、下記のとおりです。査定結果は、各科目で授業検討票作成時に活用され、今後のシラバス作成にも活用していきます。

【科目レベルの学修成果の査定概要】

- ①査定方法
 - ・滋賀文教短期大学アセスメントポリシー「科目レベルの学修成果の査定」に則り査定表を用いて実施。
- ②査定材料
 - ・当該授業（各科目）の成績（科目 GPA）
 - ・授業アンケート（問 1：到達目標達成度項目の結果）
- ③査定時期
 - 秋学期授業検討票作成時
- ④査定対象科目
 - 授業アンケートを実施した科目（一部科目を除く）
- ⑤査定実施者
 - 各教科担当教員
- ⑥各科目査定結果の公表
 - 学務課窓口で授業検討票及び査定結果の閲覧が可能（ただし、5 名以下の科目については査定結果非公表）
- ⑦査定結果の活用
 - ・授業検討票作成に活用
 - ・作成された授業検討票内容は、次年度シラバスへ反映

表 1【査定結果】査定表の枠ごとに査定結果を科目数で表しています。

達成度	80%以上～100%	60%以上～80%未満	45%以上～60%未満	20%以上～45%未満	0%～20%未満	計
成績基準						
科目GPA2.05以上～2.45以下	1 35 科目	2 0 科目	3 0 科目	4 0 科目	5 0 科目	35 科目
上記以外の科目GPA数値	6 34 科目	7 0 科目	8 0 科目	9 0 科目	10 0 科目	34 科目
計	69 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	69 科目

※科目数は、授業検討票提出数。
※口内数字は、査定表番号。
※達成度は、授業アンケート到達目標の達成度「達成できた」「おおむね達成できた」の回答合計の割合で査定。

表2【成績評価別 査定結果】成績評価方法ごとに査定結果を科目数で表しています。

査定表枠番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
成績評価方法											
成績評価①	22 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	28 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	50 科目
成績評価②	13 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	6 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	19 科目
計	35 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	34 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	69 科目

●2019年度入学生対象科目
※成績評価①：履修者数14名以下及び別に定める科目（基礎力プログラム、ゼミ、実習等）。
※成績評価②：履修者15名以上。
●2020年度入学生対象科目
※履修人数にかかわらず全ての科目で成績評価①の評価基準。

【参考：科目レベルの学修成果の査定 査定表】

科目レベル 学修成果の査定					
成績基準	達成度	※達成度は、授業アンケート到達目標の達成度「達成できた」「おおむね達成できた」の回答の割合で査定。			
	80%以上～100%	60%以上～80%未満	45%以上～60%未満	20%以上～45%未満	0%～20%未満
科目 GPA 2.05以上～2.45以下	履修学生は、到達目標に到達したと実感している。科目GPAも標準内にある。到達目標と成績評価方法・基準は、関連性があり、適切に設定されている。 ◎次年度にむけては、更に到達目標の内容を引き上げ、レベルアップにつなげることも可能である。	おおむねの履修学生は、到達目標に到達したと実感し、科目GPAも標準内にある。よって、到達目標と成績評価方法・基準は、適切に設定されている。 ◎次年度にむけては、到達目標の内容をさらに学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。	約半数の履修学生が、到達目標を達成したと実感し、科目GPAも標準内にある。よって、到達目標と成績評価方法・基準は、関連性があり、おおむね適切に設定されている。 ◎次年度にむけては、半数近くの履修学生が到達目標に到達したと実感していないため、学生の達成度を上げる必要がある。到達目標の内容を学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。 ・到達目標は、達成度が測定可能な内容にする。	約半数の履修学生が到達目標を達成していないと感じている。科目GPAについては、標準内にあるが、学生の達成度が低い傾向にあるため改善が必要である。 ◎次年度にむけては、学生の達成度を上げる必要がある。 ・到達目標と成績評価方法・基準を関連性のある内容にする。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。 ・到達目標は、達成度が測定できる内容にする。 ・到達目標は、難しすぎる設定になっていないか(学生に合致した内容にする)。	履修学生は、到達目標を達成していないと感じている。科目GPAについては、標準内にあるが、学生の達成度が低いいため改善が必要である。 ◎次年度にむけては、下記の改善が考えられる。 ・到達目標と成績評価方法・基準を関連性のある内容にする。 ・授業内容は、到達目標を意識して構成する。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。 ・到達目標は、達成度を測定できる内容にする。 ・到達目標は、難しすぎる設定になっていないか(学生に合致した内容にする)。
上記以外の科目 GPA数値	履修学生は、到達目標に到達したと実感しているが、科目GPAに偏りがある。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・到達目標や成績評価方法・基準は、簡単すぎる内容または難しすぎる内容になっていないか(学生に合致する内容にする)。	おおむねの履修学生は、到達目標に到達したと実感しているが、科目GPAに偏りがある。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・到達目標や成績評価方法・基準は、簡単すぎる内容または難しすぎる内容になっていないか(学生に合致する内容にする)。	約半数の履修学生は、到達目標に到達したと実感しているが、GPAに偏りがある。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・GPAが低い傾向にある場合は、到達目標や成績評価方法・基準が難しい設定となっていないか(学生に合致する内容にする)。	約半数の履修学生が、到達目標に到達していないと感じている。また科目GPAに偏りがある。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 【共通：GPAが高い・低いどちらの科目にも共通】 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。 【科目GPA数値が標準より高い場合：GPAが高い】 ・GPAが高いが達成度は低いため、授業内容・指導方法は到達目標を意識して構成する。 【科目GPA数値が標準より低い場合：GPAが低い】 ・到達目標や成績評価方法・基準が難しい設定となっていないか(学生に合致した内容にする)。	履修学生は、到達目標に到達していないと感じている。また科目GPAが標準外である。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 【共通：GPAが高い・低いどちらの科目にも共通】 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。 【科目GPA数値が標準より高い場合：GPAが高い】 ・GPAが高いが達成度はかなり低い。授業内容・指導方法は到達目標を意識して構成する。 【科目GPA数値が標準より低い場合：GPAが低い】 ・到達目標や成績評価方法・基準が難しい設定となっていないか(学生に合致した内容にする)。

以上